

日本史後期中間まとめ

橋本 千聡

テスト範囲

- 教科書 P167～P218
- プリント
 - － 都市と商業・手工業
 - － 幕政の改革
 - － 幕府の衰退と近代への道

出題形式

- 語群問題 (60 点)
- 正誤問題 (30 点)
- 筆記問題 (10 点)

都市と商業・手工業

村と百姓

(1) 村の運営

- **本百姓**^{ほんびやくしやう}：検地帳に登録、年貢・諸役を負担、村政に参加
- **村方三役**^{むらかたさんやく}（名主・組頭・百姓代）：村政の指導者、本百姓から選ばれることが多い

(2) 百姓の負担

- **本途物成**^{ほんともものなり}（本年貢）：田畑・屋敷地に課税、米納が原則（4～5割）
- **小物成**^{こものなり}：山野河海の利用、農業以外の副業に課税

(3) 百姓の統制

- **村請制**^{むらうけせい}：年貢・諸役の負担を村全体に割り当てる制度
- **五人組**^{ごにんぐみ}：年貢納入、犯罪防止に対する連帯責任制度

幕政の安定

4代将軍 **徳川家綱**^{いえつな}〔在 1651～1680〕

- 武断政治から **文治政治**^{ぶんちせいじ} への転換
- 末期養子の禁の緩和：50歳未満の大名が死の間際にとる養子を容認
- 殉死の禁止：主人の死に殉じる戦国の遺風を廃止

5代将軍 **徳川綱吉**^{つなよし}〔在 1680～1709〕

- **文治主義**^{ぶんちしゆぎ} の徹底
- **武家諸法度**^{ぶけしよほつと}（天和令）を發布（1683）：「文武忠孝を励まし、礼儀を正すべき事」 以前は「文武弓馬」だった
- 儒学の奨励：朱子学者・木下順庵に学び、湯島聖堂を建立

6代将軍 **徳川家宣**^{いえのぶ}〔在 1709～1712〕

- 朱子学者・**新井白石**^{あらいはくせき} を登用し、政治を刷新
- 7代将軍 徳川家継〔在 1713～1716〕の治世を含めて、正徳の治という
- 朝幕関係の改善：閑院宮家の創設
- 正徳小判鑄造：貨幣価値を上げ、物価の抑制をねらう

経済の発展

農具

- 備中鍬、千齒扱、唐箕

肥料

- 干鰯・油粕などの金肥

産業

- 入浜塩田、西陣織

交通

- ごかいどう五街道 (1 東海道、2 中山道、3 甲州道中、4 日光道中、5 奥州道中)
- ひがきかいせん菱垣廻船 と たるとかいせん樽廻船
- ひがしまわりかいせん東廻り海運 (東北日本海側 津軽海峡 那珂湊 江戸)
- にししまわりかいせん西廻り海運 (東北日本海側 下関 大坂)

貨幣

- さんか三貨 (金・銀・銭) を幕府が鑄造 「江戸の金遣い、大坂の銀遣い」

天下の台所

- 大坂には諸藩の蔵屋敷が密集、蔵元・掛屋が活躍
- さんと三都 (江戸・大坂・京都) のうちの一つ

幕政の改革

享保の改革

- 8代将軍 徳川 吉宗〔在 1716～1745、もと紀伊藩主〕
- 御用取次：将軍の意志を幕政に反映させる

享保の改革

- 相対済し令：金公事の訴えを幕府は受理しない 当事者間で解決させる
- 上げ米：大名が1万石につき100石の米を上納 参勤交代の在府期間を半年に
- 目安箱の設置：評定所に設置し、庶民の投書により 小石川養生所を設立
- 公事方御定書の制定：司法の基準

一揆と打ちこわし

- 大規模なものは、享保の飢饉、天明の飢饉のとき発生

百姓一揆

- 代表越訴型一揆（17世紀後半）：代表者が領主に直訴する形態
- 惣百姓一揆（17世紀末）：村全体の百姓がおこす大規模な一揆

打ちこわし

- 町人・農民が富商・金融業者・米問屋などを襲撃

田沼時代

- 10代将軍 徳川 家治〔在 1760～1786〕、老中 田沼意次の時代
- 意次は9代将軍 徳川家重〔在 1745～1760〕のとき御用取次をつとめた

田沼意次の政策

- 株仲間（積極的）公認：営業税の運上・冥加の増収をねらう
- 南鐐二朱銀など計数銀貨を鑄造：金を中心とする貨幣制度に一本化をめざす
- 蝦夷地の開発・ロシアとの交易の調査：最上徳内らを蝦夷地に派遣

幕府の衰退と近代への道

寛政の改革

寛政の改革: 11 代将軍 徳川 家斉〔在 1787~1837〕のとき、老中 松平 定信による改革

- 困米: 飢饉に備えて社倉・義倉に米穀を蓄えさせる
- 七分積金: 町費の節約分の 7 割を町会所で運用・積立 飢饉・災害に備える
- 寛政異学の禁: 朱子学を正学とし朱子学以外の講義・研究を禁止 @聖堂学問所

鎖国の動揺と大塩の乱

- 1792 年: ロシアの ラクスマン が根室に来航 日本人漂流民を届け、通商を要求
- 1808 年: フェートン号事件 = イギリス軍艦が長崎に乱入
- 1825 年: 異国船打払令 を発令 従来の薪水・食糧の給与を撤回
- 1832~33 年: 天保の飢饉 百姓一揆・打ちこわしの続発
- 1837 年: 大坂町奉行所の元与力・大塩平八郎 が蜂起

天保の改革

天保の改革: 12 代将軍 徳川 家慶〔在 1837~1853〕のとき、老中 水野忠邦による改革

- 人返しの法: 江戸に流入した貧民の帰郷を強制
- 株仲間の解散: 物価の引き下げがねらい
- 上知令: 江戸・大坂周辺を直轄化 ことごとく失敗に終わる

経済の変化と雄藩の浮上

- 工場制手工業 (マニュファクチュア): 商人が奉公人を工場に集め、分業と協業で手工業品を生産
- 大坂周辺・尾張 綿織物、桐生・足利 絹織物
- 薩長土肥: 薩摩・長州・土佐・肥前などの大藩が改革に成功、水戸は失敗